

飛騨市長
都竹 淳也

新年明けましておめでとうございます。日頃の市政へのご支援とご協力に対し、心から感謝を申し上げます。

昨年のお正月にはコロナ禍も収まるのではないかと期待しておりましたが、社会経済活動は少しずつ元に戻りつつあるものの、依然として感染の波は続いており、加えて原油価格・物価の高騰などが市民生活や地域経済に大きな影響を与え、市民の皆さんには不安と悩みの多い1年ではなかったかと思えます。

市も同様にその対策に翻弄された一年でした。様々な取り組みを行う中で考えてきたことは、特に弱い立場にある方々の支援を重点に置きながら、市民の皆さんが困っておられることを見極め、暮らしや企業活動を応援していくことでした。講じた対策は、コロナの無料検査体制や検査キット購入支援の維持・継続、家計応援プレミアム商品券の発行や低所得世帯への灯油券の交付、在宅介護家庭への冷暖房費の負担軽減支援、さらには畜産・水稲農家の飼料・肥料価格高騰への支援など多岐に及びます。その過程においては、多くの皆さんのご協力を得て、定期的に暮らしや事業の状況についてのお話をお伺いし、迅速に対策を立てるという作業を繰り返しました。この間、市民の皆さんとの一体感を感じられる場面が多くあったことはありがたいことだと感じております。

並行して、前向きな取り組みも積極的に

進めてまいりました。飛騨産直市「そやな」の竣工オープンや杉崎公園のリニューアル、国道360号種蔵打保バイパス(成手～塩屋間)の開通などもありました。また、天生県立自然公園のサイン整備や止利仏師の企画展、鉱山資料館のリニューアルに向けた調査、身近なところでは、障がい者グループホームの整備や公共交通を活用した山之村での貨客混載実証実験、ふるさと納税を活用した子どもたちのスポーツ活動への助成などにも取り組みました。さらに、設立から5周年を迎えた「飛騨市ファンクラブ」の活動から生まれ、飛騨市の困りごとの解決を全国の方々に助けていただく飛騨市関係案内所「ヒダスケ!」は全国から高い評価を受け、様々な賞を多数いただき、大きな注目を集めました。

本年は、市民生活の足元の課題に目を向けつつ、広い視野でトレンドを捉え、【持続可能な飛騨市づくり】をテーマに、三つの柱で中長期的な観点に立った市政を進めていきたいと考えております。

1つ目は『持続可能なまちづくり』です。再生可能エネルギーの活用を柱としたゼロカーボンシティへの挑戦、「多様性を尊重するまち」であることを広く宣言する取り組み、若者定住・転出抑制を切り口とした住みやすいまちづくりや地域の自助・共助の強化、周産期・子育てへの手厚い支援、子どもから大人まで切れ目のない障がい児者支援体制の構築などを重点として

いきたいと考えております。

2つ目は、『持続可能な産業づくり』です。産業分野での省エネ・省力化の促進や、地域外市場獲得を目的とした海外への販路展開、都市部への市産品の新たな販路拡大をテーマにしていきたいと思います。観光分野ではコロナ禍で需要が拡大したアウトドアの体験観光コンテンツの掘り起こしや自然資源の活用を、農林業の分野においては、地元産堆肥の改良や粗飼料自給率を高めるための耕畜連携、新規就農者への手厚い支援などを進めていきたいと考えています。

3つ目は『持続可能な市役所づくり』です。市業務の外部委託を拡大するとともに、市役所内の事務自動化やデジタル技術を活用した業務改革、外部の専門人材の積極的な登用、市有施設等の整理に取り組み、歳出の縮減とスリムな体制づくりを進めてまいります。

今年はコロナの捉え方自体も変わることが予想されます。まさしくコロナと共存しつつ、社会経済活動がさらに大きく元に戻っていく年になるのではないかと予測しております。物価高、光熱費の高騰も続くと思われそうですが、その対策も引き続きしっかり講じつつ、市民の皆さんが多くの方と顔を合わせて楽しい時間を過ごせる年となるよう頑張っていきたいと思います。

新しい年が皆さまにとって幸多き年となりますことを心よりご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

飛騨市議会
議長
澤
史
朗

明けましておめでとうございます。輝かしい新春をご家族お揃いでお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

年頭にあたり、市議会を代表し新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日頃から議会運営や議会活動に対し、温かいご支援ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も丸3年を経過したところですが、昨年も、翻弄された一年でありました。そのような中でも、古川祭・神岡祭の縮小開催や市や各種団体が主催する行事が増え、賑わいが戻ってまいりました。しかし、全開とまではいかない歯がゆさが残ったように感じております。

国の動きに目を向けますと、新型コロナウイルス感染症の収束を目指した国内の動きは、オミクロン株対応ワクチンの接種の促進や国産の治療薬の緊急承認、さらには2類感染症からインフルエンザ並みの5類感染症への引き下げの検討など、次のステージに進みだしております。

また、ロシアによるウクライナ侵攻や円安等の影響による物価高騰が続く中、3回にわたる対策が市から提案され、議会としましても議論を深め、可決させていただきました。今後も引き続き、社会の動向を注視してまいりたいと思います。

このような状況のなか、議会としても、市内18会場での市民との意見交換会の開

催、常任委員会における管外視察の実施などコロナ禍前の活動状況に近い活動を進めてまいりました。

議員定数等特別委員会では、約1年半の議論を重ね、令和2年2月選挙の定数割れの原因をまとめ、定数については現状維持の14人とし、報酬については継続調査としました。さらに、立候補しやすい環境を作るため、選挙運動費用の公営化についても、市に対して要望させていただいたところ です。

市民にとって一番身近な市議会議員選挙が、定数割れしたという危機感があったからこそ、アンケート調査を実施し、市議会と市民との接点が不足している状況にあることを確認することができました。

今後は、基本方針を「市民と共に多様性を反映できる議会」とし、この方針に基づき議会活動を進めてまいります。

具体的には、1つ目に広聴活動を整理し強化すること、2つ目に委員会活動を強化すること、3つ目に市民との接点を増やすこととあります。

議会としましても、住みよいまち「飛騨市」を目指し、市民の皆様の多様な意見に耳を傾けながら、市政の監視を続けるとともに、不断のない議会活動を進めます。

結びに、市民の皆様にとりまして、本年が大きく飛躍する年となり、明るい一年となりますよう、議員一同、心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



本年もよろしくお願ひ申し上げます